

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	診療の補助技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	前期	教室名	新館2, 3階、実習室
担 当 教 員	青 美智子 川原 秀明	実務経験と その関連資格	救急看護認定看護師 看護師・保健師。心臓血管外科・循環器内科、ICUと腎・膠原・糖尿病内科勤務			
《科目目標》						
診療の補助技術は、対象にとって身体侵襲を伴う行為である。そのため医療事故を未然に防ぐリスクを認識し対象者への説明と正確・安全・安楽を考えた援助の重要性を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講テスト70%・課題レポート30% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
使用教材(教科書)及び参考図書						
20巻礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術プラクティス【第4版動画付き】						
《授業外における学習方法》						
①講義までにナーシング・グラフィック基礎看護学③の基礎看護学技術をよく読み、わからない言葉や理解困難な内容を明確にしたうえで講義に臨む。						
《履修に当たっての留意点》						
身体侵襲を伴う援助であることを理解し、安全、安楽な看護実践をめざす。対象に対して、コミュニケーション技術を活用し不安が軽減する関わり方を探求する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬剤の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法が理解できる	教科書P356～374	教材を読み分らない言葉を調べておく	
		各コマにおける授業予定	剤形と吸収経路、薬剤管理(麻薬、劇薬) 与薬に関する看護師の役割 経口与薬、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬の援助			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	注射について、その目的・用途・方法が理解できる	注教科書P375～393	薬剤動態について明確にし ておく 皮膚の解剖生理について理解 しておく	
		各コマにおける授業予定	吸収速度、使用物品 射針と注射筒の構造、取り扱いの注意点 注射の実施上の責任、皮内注射、皮下注射、筋肉注射、静脈内注射			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	点滴静脈注射の安全な管理方法について理解できる 安全かつ適正な輸血管理について理解できる	教科書P393～410	教材を読み分らない言葉を調べておく	
		各コマにおける授業予定	輸液療法の目的、輸液の手順、管理方法、輸血の目的、種類、輸血の実際			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程が理解できる。	教科書	教科書をよく読んで、わからないことは調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	皮膚・創傷を管理するための基礎知識。創傷治癒のための環境づくり。			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	突然 心肺停止にある対象の救命処置が理解できる。	教科書P452～467	教材を読み分らない言葉を調べておく	
		各コマにおける授業予定	意識レベル、気道確保、呼吸管理、AED			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	喀痰貯留のメカニズムが理解できる	教科書	教科書をよく読んで、わからないことは調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	COPDの事例において呼吸方法、体位ドレナージ、ハフィングの援助がなぜ必要か		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔・鼻腔吸引を安全に実施する方法、酸素療法の目的と方法、留意点説明ができる	教科書	教科書をよく読んで、わからないことは調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔吸引、気管吸引、酸素療法(マスク、カヌラ、Tチューブ、気管チューブ)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	注射器・真空採血管による採血の必要性和方法について理解できる	教科書	教科書をよく読んで、わからないことは調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	注射器・真空採血管の取り扱い、留意点・観察項目、手順		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	モデル人形に安全・確実な皮下注射、筋肉注射、採血を実施することができる。	教科書	演習のための計画書を作成しておくこと。
		各コマにおける授業予定	モデル人形を用いて皮下注射、筋肉注射、BS測定、採血		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	褥瘡予防ケア、褥瘡のアセスメントと治癒促進ケア	教科書	演習のための計画書を作成しておくこと。
		各コマにおける授業予定	褥瘡の評価、褥瘡の好発部位と体位変換・除圧の援助		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	突然 心肺停止にある対象の救命処置が実施することができる。	教科書	演習のための計画書を作成しておくこと。
		各コマにおける授業予定	気道確保、胸骨圧迫、AED、呼吸管理、救急薬品		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸方法、体位ドレナージ、スクイーピング、ハフィングの援助が実施できる	教科書	演習のための計画書を作成しておくこと。
		各コマにおける授業予定	呼吸方法、体位ドレナージ、スクイーピング、ハフィングの援助		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	安全に口腔・鼻腔吸引・気管吸引が実施できる	教科書	演習のための計画書を作成しておくこと。
		各コマにおける授業予定	モデルを用いた口腔・鼻腔吸引		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	酸素療法(管理方法)が実施できる	教科書	演習のための計画書を作成しておくこと。
		各コマにおける授業予定	酸素療法、酸素ボンベの残量計算、酸素マスク・カヌラの装着		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ・終講試験		
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		